

次年度（令和7年度）に向けた改善方策（令和7年度重点目標）

令和7年度の重点目標

① 「キャリア・未来デザイン教育」の実現に向けて

○探究的な学びを通して児童が学習を自分事として捉え、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」が高まるような指導を行う。「課題を見いだし、把握している」「課題解決の方法を考えている」「協働して学んでいる」「学びを振り返り次につなげている」という「探究のプロセス」を繰り返し、発展させていくことで、「せたがや探究的な学び」を推進する。

② 教育DXの推進

○一人一台のタブレット端末を学習の基盤ツールとして活用することで、多様な学びの機会を保障する。その際には使い方を自律的にコントロールできるようにする。ICTの活用により、習熟度や学習の進度、興味・関心等、児童の個々の学習状況に応じた「個別最適な学び」、異なる考え方や価値を組み合わせ、探究的な学習や体験的な活動を通した「協働的な学び」の充実を図る。

③ 多様性を尊重しながら共に学び、共に育つ教育の推進に向けて

○人権教育を基盤として、互いを尊重し合う心情、自尊心や自信を育成し、自己肯定感を高める。多様性を理解し他者や自然を尊重し、あらゆる差別や偏見をもたず、相手の立場に立って行動できる心情を培う。

④ 地域社会と協働した教育の推進に向けて

○キャリア教育につながる生活科・総合的な学習の時間の単元開発をより充実させ、商店街や地域の美術館、専門学校や農業高校と連携した学びを構築していく。子どもたち自身が地域に出向き、そこでの探究的な活動を展開できるような学びを創造していく。地域の役に立つ喜びを子ども一人ひとりが実感できるようにする。

⑤ 「学校における働き方改革」の推進に向けて

○創造的余白を生むために、職務の内容を吟味し、長年変わっていない様々な教育活動や職務内容について精査していく。